

保健医療従事者の教育

— 某大学の実験的カリキュラムについて —

順天堂大学 沢 口 進

順天堂大学 〇米 林 喜 男

医学研究の成果と医療の社会化に伴ない医療の概念が近年著しく拡大されてきた。今日医療には治療のほか疾病の予防と予後が包含され、管理方式も単なる疾病管理から総合医療、健康管理へと移行してきた。

一方戦後の変貌する地域社会、地域格差によって疾病、死亡構造にも急激な変化がみられ、技術革新の進展による新しい事業所の発生によって新しい公害や職業病があらわれ、それらが今や社会問題となり、ただ一つの医療集団のみで十分に解決することが困難になってきた。つまり医療集団が他の社会的集団との協調のうえにたって、地域での保健計画や事業所・学校での健康管理が再検討されなければならないようになってきている。

医療の対象が生物学的疾病から社会的人間の健康並びに健康の破綻へと質的転換がなされるにしたがい、保健医療従事者の教育も旧来の如き自然科学的教育一辺倒から他の関連科学、特に社会科学に関心がむけられ、カリキュラムに附加される必要がせまられてきた。

保健医療従事者とは、医師・看護婦・保健婦・OT、PT、（作業療法士、理学療法士）、医療社会事業家、衛生教育担当者、衛生管理者、学校保健担当教員、食品衛生看視員等をいう。今回は、医師以外の保健医療関係者を教育してきた某大学の事例——主にカリキュラム——を他の一、二の大学ともあわせ検討、紹介し、保健医療従事者の「組織的教育」の整備、拡充のための方策の資料を提供したい。同時に今後の保健医療関係研究に大方の御力添えを頂きたくここに発表することにした。